

植物園シンポジウム

ふるさとの植物を守ろう



今
で
き
る
こ
と
は
何
か

平成19年 3月10日 土
午後1時30分-4時30分

入場無料 先着300名

東京大学 弥生講堂

主催：(社)日本植物園協会
後援：環境省(予定)、東京都(予定)、植物園自然保護国際機構、
日本放送出版協会、日本植物分類学会

今できることは何か

今、地球上の植物世界は急激な人間社会の膨張による開発、環境変化により、おおくの植物たちがその生育地を追われ、消えつつあります。市民の皆さんと植物園が手を携えて、これらふるさとの植物を守る活動を推し進め、私たちの子、孫にふるさとの植物とそれらが生きてゆけるふるさとの環境を残すために今できることは何か、考えてみましょう。

植物園シンポジウム

ふるさとの植物を守ろう

植物

平成19年

3月10日(土) 午後1時30分-4時30分

12:30 開場

13:30 開会 総合司会 鈴木 三男(東北大学教授・植物園長)
「植物園の日」宣言 岡島 徳岳(社)日本植物園協会・会長

13:40 基調講演

- ①「ファインダーから見える里山と私たちの生活」 今森 光彦(写真家・ナチュラリスト)
- ②「絶滅危惧植物と植物園」 邑田 仁(東京大学教授・植物分類学)

14:40 休憩

14:50 パネルディスカッション

- 司会 裕 孝仁(NHK出版「趣味の園芸」編集長)
パネリスト 今森 光彦(写真家・ナチュラリスト)
西川 稜子(水戸市植物公園園長) / 星野 一昭(環境省自然環境局野生生物課長)
邑田 仁(東京大学教授・植物分類学) / 鷲谷 いずみ(東京大学教授・植物生態学)



今森 光彦(写真家・ナチュラリスト)

1954年滋賀県生まれ。
大学卒業後独学で写真技術を学び1980年よりフリーランスとなる。
以後、琵琶湖をとりまくすべての自然と人との関わりをテーマに撮影する。
一方、熱帯雨林から砂漠まで、広く世界の辺境地の訪問を重ね、取材をつづけている。



邑田 仁(東京大学教授・植物分類学)

1952年埼玉県生まれ。
東京大学理学系研究科附属植物園研究室で植物系統分類学の研究を行う。特に アジアの熱帯・亜熱帯地域で現地調査を行い、植物の形態や生活史の特徴を調べている。

会場において絶滅危惧植物の保全に関するパネルや植物園のパンフレットなどを展示しています。また、「日本の植物園における生物多様性保全」の出版発表と申込みを受け付けます。

入場無料 先着300名

出席ご希望の方は連絡先とお名前をハガキ・FAX又はメールでご連絡ください。お申込みの方には会場に記念品をご用意しています。会場に余裕がある場合は当日参加できます。

(社)日本植物園協会事務局
〒114-0014 東京都北区田端1-15-11 ティーハイムアサカ201
電話:03-5685-1431 FAX:03-5685-1453 E-mail:info@syokubutsuen-kyokai.jp

東京大学 弥生講堂

文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

地下鉄
南北線「東大前」駅下車 徒歩1分
千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

バス
茶51駒込駅、王子駅または、
東43荒川土手行「農学部前」
バス停 徒歩1分



本シンポジウムは平成18年度 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金並びに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成による事業です。

申込み用紙 FAX 03-5685-1453

出席ご希望の方は連絡先及びお名前をハガキ・FAX又はメールでご連絡ください。

(社)日本植物園協会事務局

〒114-0014 東京都北区田端1-15-11 ティーハイムアサカ201
Tel:03-5685-1431 Fax:03-5685-1453 E-mail:info@syokubutsuen-kyokai.jp

お名前	TEL
ご住所	